

# 労山愛知

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

2024年2月29日発行

No. 609号 (第55期 12号)

〒454-0055

名古屋市中川区十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX 052-654-1411

<http://aichirousan.web.fc2.com/>

## 第 55 期積雪期救助訓練実技を行いました。



2024年2月4日(土)大日ヶ岳で、参加人数は21名、参加山岳会は、かわせみ、じねんじょ、若駒、東三河、半田F、あつたの6山岳会で行いました講師、スタッフ合わせて21名で登山道から、パーティの1名が滑落し、それを救助する設定で行いました。①滑落した怪我人をザックで背負い上部で引上げシステムを構築し登山道まで引き上げる。②怪我人をヒューマンチェーンで移動しツェルトで保温する。③雪上での支点の作り方を3パーティに分かれ行いました。その後、全体で、ツェルト搬送、雪洞の作り方、積もった雪の弱層を学び終了しました。

(次頁につづく)

### 《目次》

	第55期積雪期救助訓練実技を行いました。	1
	各会の紹介と山行報告 第4回 東三河山ぽ会 じねんじょ山の会	2
遭対部	2月2日(金)第55期第5回遭対担当者会議の報告	4
〃	1月19日(金)55期遭対冬山合宿報告会議を開きました	5
教育部	1/25(木)第10回教育担当者会議を開きました	6
〃	1/28(日)雪山の交流山行をしました	6
〃	教育部 交流山行をします!(4/7)	7
組織部	第55期 第10回 第11回組織担当者会議	8
〃	各務原アルプス 交流山行 報告	9
自然保護部	第55期第7回自然保護担当者会議の報告	10
女性部	スポーツで負けない体づくりのために～料理教室 [女性の集い]	10
	第22回東海ブロック雪崩事故を防ぐための講習会 開催	11
	第56期登山学校、2024年3月31日から開講	11
	カレンダー	14

(表紙からのつづき)

参加者の積雪期救助訓練に参加者の感想

・ヒューマンチェーンでは1名の怪我人でも4名で搬送することは難しいということ、ツェルト設営についても積雪期だからこそ、いち早く設営が出来る技術を身に付ける必要があると痛感しました。ザック搬送では緩やかな斜面で短い距離であれば可能かもしれないが、急斜面や長い距離、積雪の状況、の性別（特に女性）によっては非常に難しいということが理解できました。搬送者各アンカーについては直前の会の雪上訓練にて実施していたものの、改めての復習になりました。ツェルト搬送については無雪期の救助訓練でも実施しているが、積雪期ならではの雪玉を利用したロープワーク等は、勉強になりました。いずれにしても、無雪期と異なり、要救助者及び救護者双方の低体温の危険があるため、速やかな判断と行動が必要ということが理解できました。

・ちょっとした転倒が大きな滑落事故につながるため、雪山でも転ばない歩きが出来ることが安全登山につながる。・滑落や低体温症などトラブルに遭遇したことはない。普段から妄想登山のシュミレーションをする。・怪我人を移動させツェルトにて保温する訓練でもメンバーでコミュニケーションをとる必要を再確認した。またツェルト設営も素早くできなかった。ツェルトにも種類用途がある。プラティパスに湯を入れ湯たんぽにすると保温しやすいと思った。装備の確認、事前に準備をする。・ザック搬送では無雪期とは違う雪の足場は足元が安定せず、まず立ち上がれなかった。4人パーティで支え登るのも困難で現実難しいと感じた。・雪崩を予測することは困難なことで、雪の斜面は常に警戒し慎重に行動する

・雪山でリュックを使って、救助者を背負う救助やツェルトを使っての救助を訓練しました。無雪期でも人を運ぶのは大変なのに、雪だと足を取られて一步出すのも苦勞する。さらに、寒さも考慮しなくてはならず、とても難易度が高い事がわかりました。なので、自分らが救助されることが無いように普段から気を付けようと思いました。

## 各会の紹介と山行報告

### 東三河山ぽ会

松本佳宣

「みんなで企画し、みんなで歩く」

1984年7月の会の発足以来、欠かさことなく月刊で発行してきた会報の表紙に記載されているキャッチフレーズである。まさにこの言葉を地で行く会になります。会員数は、現在、愛知県で最大規模となる150余名が在籍しており、20代から80代で構成されています。ありがたいことに毎年20名前後の方にご入会いただいております。そこにはもちろん初心者も大勢含まれています。そこで会としては例年、主に初心者を対象とした春と秋の登山教室（基礎編）と冬前の登山教室（雪山編）を企画し、それぞれ座学5講座程度と実技山行を実施しています。講師も会員が担当し、受講生はもちろんのこと、教える講師にとっても有意義な教室となっています。

毎月開催される月例山行は、会員みんなが参加しやすいようレベルの異なる3本を用意し、アルプスなどの百名山や地元の山、バリエーションルートや雪山登山、沢登りなどバラエティーに富んでいます。それに加えて、春山や夏山・冬山の合宿も行っており、毎回3~4本の山行が企画されますが、ここ数年の夏山合宿に限っては初級や中級コースを中心に10本もの山行が企画され、会員各々が参加し楽しんでいきます。

これら会主催の山行や自主山行含めて年400本前後の山行が計画され、延べ2000人を超える会員が山行に参加しています。会としては安全登山を合言葉に安全には十分に留意しており、山行前には提出される全計画書を安全対策部により事前にチェックし、時にはアドバイスや指導を行っています。夏山合宿前と秋の年2回、救助訓練も実施して会員の安全意識を高めています。

近年年配の会員が増えてきたことに伴い、上記の月例山行とは別に、四季を感じながら歴史探索などのゆっくりとした山行を毎月平日に企画実施する「平日山行部」も誕生しました。時には体力維持を目的に地元弓張山地を中心としたトレーニング山行も行っています。

その他、植物などの定点の自然観察や環境保護を中心としながら、年2回の清掃山行や最近では各種自然保護団体とも連携した活動も行われています。また昨年からは豊橋自然歩道パトロールボランティアにも参加し、登山者が安全に歩行できるよう山道の維持管理のための活動を行っています。

創立 40 周年を迎えるにあたって

これまで5周年毎に著名人の講演会を中心としたレセプションや会員の山行記録を集めた記念誌の作成、地元の山にクローズアップした山行案内本を発刊してきました。

特に山行案内本は、10周年の『わたしたちの明神山』に始まり、20周年の『東三河の山』、

25周年の『わたしたちの明神山・改訂版』、30周年の『東三河の名峰・本宮山』、35周年の『三河・北遠ふるさとの山』などを発行し、販売もしてきました。案内本を作成するにあたっては、会員がそれぞれ分担してルートを何度も登り、記事を書いては修正しを繰り返しまとめたものです。その甲斐もあり、直近の35周年『三河・北遠ふるさとの山』は、1000冊をも販売することが出来ました。当然ながら苦労もありますが会員の実力を高めながら、記憶に残る取り組みになっています。今年度2024年には創立40周年を迎えますので、会員みんなで何かまた楽しいことが出来ればと思っています。





## じねんじょ山の会の今とその歩み

脇田 敏英

じねんじょ山の会は、一宮市を拠点に活動している地域型山岳会と言えるでしょう。現会員数は45人(男性27人・女性18人)で30才代～70才代の会員(平均年齢約59才)が在籍し、そのうち50～60才代が7割弱となっています。また会員の居住地は一宮市が6～7割で、それに加えて海部・尾張・美濃などとなっています。この数年は数名の入れ替わりがありますがほぼ同じ構成で推移しています。

年間山行数は250回程です。その内で春夏冬の合宿を含む会山行が25回程程度(総会で予定を決定します)です。ですから大半が各会員の自主的に計画する個人山行となります。それら山行の大半は日帰りの山歩きですが、合宿などのテント泊やクライミング、沢登り、アイスクライミングなどもあり、広く浅くオールシーズン登山を楽しんでいる会と言えるでしょう。会山行は目的や課題を設定した教育山行・合宿トレーニング・清掃山行等があり、最近では自然観察山行・平日山行なども取組んでいます。

年間活動内容と役割分担は毎年3月上旬の定期総会で決めます。日常の会活動は、毎月2回の例会(会員による定例会議)で山行計画や必要事項を論議・確認しながら活動します。例会の前半を登山と会活動の基本事項の学習会に充てて年間で12回程行なっています。また運営委員会(10人程のメンバー)を毎月開催して、時々の課題の検討や総会決定の遂行に努めています。

じねんじょ山の会は1982年6月に一宮市在勤在住の山歩きをしていた4人により結成されました。数年後には設立メンバーの3人が退会し、会員数も数名という存亡の危機もありました。それでも細々と活動を繋いで10年目に会員が30人程となり組織な運営の基盤ができて以降、紆余曲折を経ながら活動を積上げて、41年余の登山活動を継続して現在に至っています。

新型コロナ感染拡大の3年余は会活動に少なくない影響があります。それまで毎年取り組んで来ていた地域の人を対象にした公開山行バスハイクは中断に至り、さらにその他の状況も勘案して中止としました。一方で、地域への取組みとして5年前から開始し始めていた一般者向け登山講座を昨年から本格的に再開しています。また、例会(定例会議)は毎月2回開催となっていますが、コロナ禍の3年余は例会等の対面での打合せの中止や削減をせざるを得ませんでした。その影響で例会の出席率の低下に拍車がかかっています。仲間意識の希薄化が懸念されます。合宿と会山行の一時中止・削減も3年余に渡ると登山技術や経験の継承に不十分さが出てしまいます。

コロナ禍を経てインターネットの活用は社会的に一段と進んでいます。当会会員間や会の情報共有や情報発信でも活用が進んでいますが、その一方で対面での繋がりが少なくなりネット繋がりが先行による仲間意識の希薄化が懸念されます。

また情報発信の主流になりつつあるホームページやSNSですが、それを安定して継続していける人材と体制ができずに不十分な状況が続いておりその克服が課題となっています。

## **遭対部 2月2日(金)第55期第5回遭対担当者会議の報告**

2024年2月2日(金)県連事務所で19:30より、第5回遭対担当者会議を開き、9山岳会10名が参加しました。【参加者】高井(春日井峠)、洞井(半田F)、樋江井(若駒)、名倉(くらら)、三島(じねんじょ)、小出、澤田(みどり)、添田(ありんこ)、堀(ASC)、佐藤(あつた)

### 1.事故報告 NO.11

【みどり山の会】下山を始め、膝に不安定な感覚もあったが、下山後、左右に心もとない感覚を覚えたが平地を駅まで歩き、駅に到着後、膝を曲げることの出来ないほどの痛みが出た。

【事故発生日時】2023年10月15日(日)14時45分頃【山域・山名】琵琶湖南・三上山【事故

者】女性 62才【受傷の程度】膝の捻挫【事故の概要】山頂到着し下山を始め、膝に不安定な感覚もあったが、下山後、平地を駅まで歩き、駅に到着後、膝を曲げることの出来ないほどの痛みが出た。膝を見ると左右明らかに晴れていたのが確認できた。翌日、病院に行き、膝の捻挫の診断▲反省・指摘などザックの重量、体重などが膝に負担になるので自己管理が大切・ストックを使う・普段、歩幅が広いので小幅で歩くようにする・普段からの体力づくりに取り組むなど

2. 冬山合宿報告

山 岳 会	山 域	コ ー ス	日 程	人 数
半田ファミリー山の会	南アルプス	夜叉神㊦～南御室小屋～薬師岳～観音岳～南御室小屋～夜叉神㊦	1/27 ～ 29	6

感想、意見：雪不足のため、雪上歩行訓練が十分できないで本番を迎える事を避けるために1月末に合宿を設定した。当初の計画にあった地蔵岳までは、メンバーの体力、時間的なもので取りやめた。3日間とも春山のような好天だった。

3. 積雪期救助訓練の実技の確認をした。

参加山岳会は、半田 F6 名、東三河 1 名、若駒 1 名、じねんじょ 10 名、かわせみ 1 名、あつた 3 名 (2月2日時点)

4. 今期の反省と来期に向けて話し合いました

出された意見：遭対部主催の各種講習会、訓練について遭対担当者会議で話して、目的や意義を伝えていく事が必要・講習会等の内容をアップデートする場になっていない・日程の早いアナウンスが必要・講習会等の労山愛知の報告に参加者の意見を載せ、内容を伝える・事故に関しては、コロナが開け上半期に事故が集中した。特に無届けの山行での死亡事故は、代表者会議での各会の無届山行に対して、何でそういう規則になったのか？必要なかを議論をした・事故事例集について普及する上で、何をそこから学ぶのが大事、などの意見がありました。

5. 56 期会議予定

①遭対担当者会議 3/29 (金) 6/7 (金) 9/6 (金) 11/8 (金) 2/14 (金)

春山合宿連絡 4/12 (金) 報告 5/17 (金) 夏山合宿連絡 7/5 (金) 報告 8/23 (金)

冬山合宿連絡 12/13 (金) 報告 (金) 1/31 (金)

②確保技術講習会・無雪期・積雪期救助訓練、救急救命法講習会を実施します

確保技術 6/3 (机) 6/16 (実) 無雪期 6/10 (机) 6/23 (実) 救急救命法 6/22 (机) 積雪期救助 1/20 (机) 2/2 (実)

③東海ブロック雪崩講習会を実施します。11/17 (机) 1/25～26 (実)

## 1月19日(金) 55期遭対冬山合宿報告会議を開きました

2024年1月19日(金) 県連事務所で19時30分より、遭対冬山合宿報告会議を開き6山岳会7名が参加しました。【参加者】樋江井、神崎(若駒)、大谷(じねんじょ)、洞井(半田F)、松本、(東三河)、前田(かわせみ)、佐藤(あつた)

山 岳 会	山 域	コ ー ス	日 程	人 数
じねんじょ山の会	八ツ	みどり池入口㊦～本沢温泉～夏沢峠～西天狗～夏沢峠～硫黄岳～夏沢峠～本沢温泉～みどり池入口㊦	12/16 ～ 17	8
ありんこ山岳会	八ツ	美濃戸口㊦～赤岳鉱泉～行者小屋～地蔵ノ頭～赤岳～文三郎～赤岳鉱泉～美濃戸口㊦赤岳鉱泉～美濃戸口㊦	1/7～8	6
東三河	A 霧ヶ峰	八島湿原㊦～鷲ヶ峰～ヒュッテみさやま＝車山㊦～車山～車山㊦	1/2～3	3
	B 八ツ	稲子湯唐沢橋登山口㊦～本沢温泉～硫黄岳～本沢温	1/6～7	8

			泉～稲子湯唐沢橋登山口⑯		
	C	南ア	夜叉神峠登山口～南御室小屋～薬師岳～観音岳～地藏岳～観音岳～南御室小屋～夜叉神峠登山口	1/6～7	4
	D	上信	あずまや高原登山口～四阿山・根子岳分岐～四阿山～四阿山・根子岳分岐～あずまや高原登山口	1/6～7	6
若駒		北ア			

※12/16～17（じねんじょ）空木岳悪天の為中止

※1/27～29（半田）鳳凰三山は次回の遭対会議で報告

意見、反省など：（じねんじょ）ゴーグルを使用したメンバーが汗でゴーグルが曇り、使い方などを練習する必要があった。強風のため耐風姿勢を取ったが危険なため、箕冠山で撤退した（東三河）グローブが使いずらかった。装備の見直しや使い方の練習が必要だった。ヘルメットの装着が緩かったため風で飛ばされた。アイゼンになれていないメンバーが木の根や石につまづいた。鳳凰三山では、メンバーの1名が体調不良で欠席になったため、各自のザックの重量が重くなり、軽量化の装備分担が必要だった・（若駒）雪が少なく歩きずらかった。パーティのメンバーで体力差大きかった。

以上の反省などが出ましたが、今期は冬山合宿を取り組む会が少なく課題として、各会で安全対策や技術を伝えていくことが必要になっていると感じ、遭対として会議を通して合宿の意義や、安全登山を伝えていきたい。

## **教育部 1/25(木) 第10回教育担当者会議を開きました**

日時：1月25日（木）19時30分～（zoom会議で実施）

参加者：くらら（吉田）、かわせみ（野村、佐伯）、みどり（澤田）、あつた（坂木）、ありんこ（榊原） 計 5山岳会 6名

(1) 前回議事録の確認

前回議事録を確認しました。

(2) 雪山安全講習会について

1/21を12/17の代替日として、日帰りの実技山行をすることとしていましたが、天候不順のため、中止となりました。（今期の実技山行は実施できませんでした。）

(3) 交流山行について

- ・今期最後の交流山行を1/28実施しますので、再度の参加呼びかけをお願いしました。現時点の参加は、みどり3名、ありんこ1名の計4名です。
- ・56期春の交流山行の案について、意見交換をして案どおり確認しました。

(4) 来期（56期）総会議案の意見交換

- ・第56期総会議案（教育部）のたたき台について、意見交換をして案どおり確認しました。
- ・「年配者向けにグレーディングやメッツの学習と体力測定の実技山行を計画してほしい。」との意見がありましたので、来期の取組みの計画に反映していくこととなりました。

(5) 来期は各会からの参加がもっと多くなりるように、総会で呼びかけることを確認し、今期最後の担当者会議を締めくくりました。

## **1/28(日) 雪山の交流山行をしました！**

近鉄湯の山温泉駅から中道登山口の駐車場までタクシーを利用しましたが、タクシーが雪のため回転できず、みんなで押してなんとかタクシーを帰すといった具合に雪が豊富(?)にありました。

雪の御在所岳中道を初めて登る人もいて、雪景色に映える負れ岩（おばれいわ）や地蔵岩を見ながら緊張感のなか、6合目キレットの鎖場へ。

アイゼンをきかせながら確実に通過しました。意外と楽に通過でき、続く8合目の鎖場や岩場もそれほど苦労せずに通過することができました。

空気が澄んでいる日には富士山が見えるという富士見岩では、あいにく霞んでいて富士山は見れませんでした。

その後、朝陽台広場で記念写真を撮り、昼食とトイレのため、ロープウェイ山上駅にあるロープウェイ博物館へ。ここは窓際にテーブルと椅子があり、本谷を見ながら休憩できるようになっていて、登山者にとっては穴場の休憩所といえます。（トイレはロープウェイ博物館の下階にあります。）

下山は裏道です。みんな体力に余裕があったので、計画どおり国見峠から国見岳の間でラッセルの練習（膝上くらいの雪）をしてから、下山しました。

雪山の交流山行ということで参加が4名（みどり3名ありんこ1名）と少なかったが、アイゼンを履いての岩場・鎖場やラッセルの体験ができた充実した山行でした

「来年はもっと多くの人を雪山交流山行に誘おうね。」と話しながら帰りのバスに乗りました。

（名古屋ありんこ山岳会 榊原）



## 教育部 交流山行をします! (4/7)

教育部で交流山行を計画しました。浮石に気をつけながら岩場やザレ場が体験でき、

イワウチワやアカヤシオ等の春の花々と出会うコースとしました。

各山岳会のみなさん、奮って参加願います。

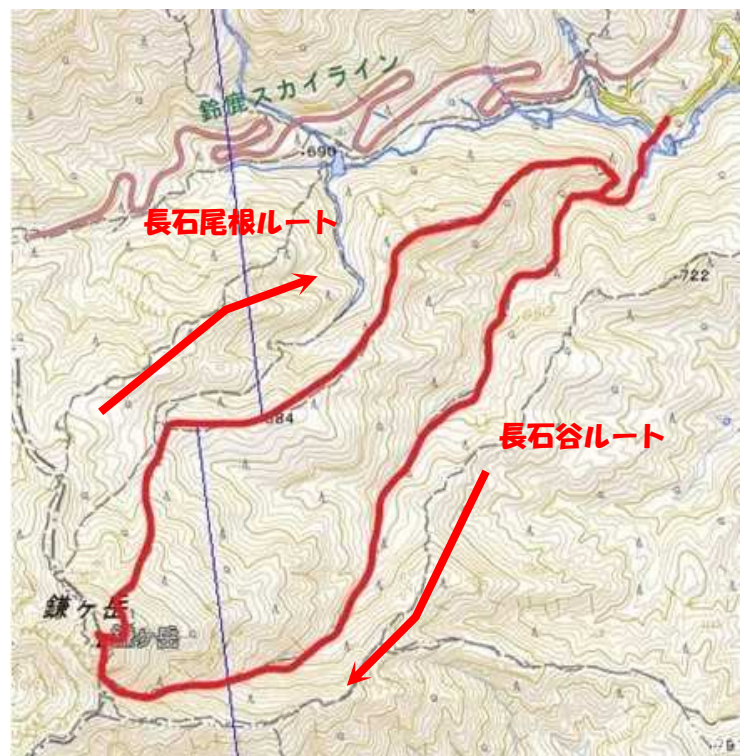
1. 日時 :2024年4月7日(日) 8:00 集合

2. 集合場所:湯の山温泉ロープウェイ駐車場 (8:00 集合)

3. 申し込み:愛知県勤労者山岳連盟教育部 (e-mail:aichirousan@gmail.com)宛てに氏名、所属山岳会名を明記して3/31までにメールして下さい。

4. コース (コースタイム参考)

湯の山温泉ロープウェイ駐車場 8:30 ~長石谷登山口 9:00~長石尾根分岐 9:15~



鎌ヶ岳 12:00-12:30～三口谷分岐 13:10～弥ヶ岳 13:40～登山口 14:30  
湯の山温泉ロープウェイ駐車場駐車場 15:00

## **組織部 第55期 第10回組織担当者会議——報告**

2024年01月18日(木)

**Zoom** : 午後7時～9時00分

出席者 : あつた(□中津川)、若駒(□中橋)、同志会(□吉川)

Zoom : 東三河(□戸田)、スルジェ(□杉田)、ありんこ(□榊原) 春日井(□落合)、

- 1)組織数の推移・入退会理由——各会の状況を別紙により報告した。
- 2)2024年度第56期年間日程表(案)——総会資料を一部訂正した。
- 3)2024年度第56期の組織部総会議案(案)を説明した。
- 3)組織部交流山行——2月4日(日)

場所——各務原アルプス。坂祝～明王山～八木三山

目的——各会組織担当者・理事の交流・

地図読み山行、初回の山行に使えないかチェックする。

参加確認——現在17名

- 4)第56期一般向け登山講座、——来期第56期に向けて検討事項

- ① 日程の検討——日程の組み方について討議しました。
- ② 講習の内容の検討——山岳会の必要性を重視し、入会促進につなげる。
- ③ マニュアル・講座の内容の整備を進める。

- 5)愛知平和行進、

学習会のセット、——コロナ禍で従来平和行進に参加していた人が不参加になっていた。

運動の継承の為に初歩から学習できるように段取りする。

3月7日(木) 原水爆禁止愛知県協議会(愛知県原水協)佐竹氏

\*演題 : 今年の平和行進の意義。世界と国内を取り巻く情勢と私たちの課題

\*Zoomの活用で視聴者を増やす。担当者会議の参加者に限らず、視聴できるようにする。

\*事前の宣伝を労山愛知で行う。2月号、3月号。

## **第55期 第11回 組織担当者会議 報告**

2024年02月22日(木)

**Zoom** : 午後7時～9時00分

出席者 : 若駒(□中橋)、同志会(□吉川)、

Zoom : じねんじょ(□後藤)、ありんこ(□榊原)・かわせみ(□白水)、みどり(□下山)  
東三河(□戸田)、あつた(□松岡)、

- 1) 組織数の推移・入退会理由——各会の状況——その他総会用資料集掲載用を配布し、説明した。
- 2)2024年度第56期年間日程表(案)——前回分について、登山学校の予定など一部変更の予定。  
同 組織部方針(案)——概略、説明した。
- 3)組織部交流山行——2月4日(日)

場所——各務原アルプス。坂祝～明王山 9山岳会25名参加。

目的——各会組織担当者・理事の交流。

地図読み山行、初回の山行に使えないかチェックする。——これは行程が長いこと、

岩場があることから、初心者向けでない、一般講座向けでないこととなった。

反省点——昼憩での時間の使い方など、課題をのこした。



何処の会所属・名前が分からないので、名札(養生テープ・マジック使用する)を付けるようにする。

4) 第 56 期一般向け登山講座、—— 来期第 56 期に向けて検討事項

- ① 日程の検討——前回通りの日程とする。
- ② 受講料の件——7,000 程度に抑えるようにする。
- ③ 講師料の件、——昨年同様、2,000 円とする。
- ④ 講習の内容の検討、⑤ マニュアルの整備——今後の検討課題。

5) 愛知平和行進

学習会のセット、——コロナ禍で従来平和行進に参加していた人が不参加になっていた。

運動の継承の為に初歩から学習できるように段取りする。

3月7日(木) 原水爆禁止愛知県協議会(愛知県原水協)佐竹氏

\* 演題：今年の平和行進の意義。世界と国内を取り巻く情勢と私たちの課題

\* Zoom の活用で視聴者を増やす。担当者会議会議の参加者に限らず、視聴できるようにする。

\* 記録をきちんと残す。

6) 県連盟ホームページの件、3 山岳会訂正済。今後 2 山岳会が訂正予定。

## 各務原アルプス 交流山行 報告

2月4日各務原アルプスにて各会交流山行を実施しました。今年の交流山行は遠隔地で普段理事会に Zoom での参加が多い理事の交流を兼ねて、また一般向け登山講座の実技山行の山城として適当かどうかの判断、下見を兼ねて行いました。

出発地の JR 坂祝駅に集合し 3 パーティに分かれて自己紹介と準備運動を行い出発。コースは JR 坂祝駅より猿啄城、明王山、迫間山と周り一旦迫間不動に下って休憩地の自然遺産の森で昼憩。八木山北尾根に上がって八木三山を縦走して下山、名鉄各務原線羽場駅にて解散しました。



コースとしては猿啄城や八木三山からの眺望は良く、地図読み山行の山城としては使用できそうですが、コースが長く地図読みの時間が取りづらいなどの難点があります。また八木山北尾根には岩場があり初心者の参加したパーティとしては問題が残ります。

天候にも恵まれて各パーティでの交流を行なう事ができました。昼憩時間での各会間での交流の仕方とかについての指摘があり、今後の検討課題としていきたいと思います。

参加者は 9 山岳会で、参加者はみどり山の会 3 名、若駒山岳会 1 名、同志会 3 名、東三河 5 名、

犬山マップ4名、あつた労山3名、尾張HC1名、ありんこ山岳会3名、ふわく山の会2名でした。各パーティのCL・SLを務められた方をはじめ、お疲れさまでした。 [記：吉川]

## **自然保護部** 第55期第1回自然保護担当者会議の報告

参加者：山本（みどり）、藤井（若駒）、佐藤（あつた）

ZOOM：水野（春日井）、二村（あつた）、荻谷、高津（ふわく）、大倉（くらら）

県連事務所19時30分より自然保護担当者会議をZOOMを併用して行いました。

内容は、今期の清掃登山と秋の各会合同清掃登山の反省や意見を話し合いました

鈴鹿山系清掃登山は今期はは54期と比べ317名から347名に参加者が増加した。コロナが第5類に変わり参加しやすくなったことも一因。藤原岳でのハルザキヤマガラスの駆除作業も長年続けてきた成果が表れ、減少した。一方、鹿の増加により、草が食べられ、鹿の糞が一面に広がっている。ライチョウ目撃情報ネットワークに取り組む。などの感想、意見がありました。

56期会議日程の確認

自然保護担当者会議

①3/15（金）②7/19（金）③9/20（金）④10/18（金）⑤11/15（金）⑥12/20（金）⑦1/17（金）

清掃登山実行委員会

①4/5（金）②4/19（金）③5/10（金）④5/24（金）⑤6/4 清掃登山（日）

11/16～17 全国自然保護集会

## **女性部** スポーツで負けない体づくりのために～料理教室 [女性の集い]



2月1日（木）5山岳会22名が参加して、服部さん（山の会くらら）の指導のもと、健康的に筋肉を付けるための栄養バランスメニューを中心に開催しました。筋トレを支えるのには、筋肉に必要な良質のタンパク質をきちんと取ることです。瀬戸の郷土料理だという五目飯など、手に入りやすい食材で簡単に作れるメニューを服部さんに考えて貰いました。講師の服部さんからは「皆さんの手際よさに感心しました。予定時間より早く出来上がり、温かい料理を食べていただき感謝です。帰りには皆さんから「美味しかった」というご褒美の言葉をいただき嬉しかったです」。ただ不思議なのは、メニュー通りに作ってあるはずなのに、各グループの味が少しずつ違うことです。これもそれぞれの山の会の個性でしょうか。参加者からの声を並べてみると

- ・いつもながら身近にある材料や調味料で作ることのできるメニューです。
- ・次回も是非参加したい。

- ・ 4種類とも美味しく、作り方も簡単で山登りする人達の体のことを考えられたメニューで、自分でも作りたいと思うものばかりでした。
- ・ 五目飯をおにぎりにして持って帰りましたが、冷めても温め直さなくても美味しく、山に持って行くのにもってこいだと思った。また、同様に鶏の手羽元やリンゴケーキも冷めても美味しく山へ持って行けるとおもいました。
- ・ ポトフに普段サツマイモや大根を入れないが、以外に美味しくってびっくりしました。
- ・ 女性部の料理教室は楽しくて、為になるので楽しみ。今回も素敵なレシピと楽しい時間でした。工程を間違えても大目に見てくれる温かさもたまらないです。

当日メニュー：

●五目ご飯●野菜たっぷり簡単ポトフ●鶏手羽元のさっぱり煮●リンゴケーキ

※なお2月15日の女性部会は都合により延期になりました。

## 第22回東海フロック雪崩事故を防ぐための講習会 開催

2024年1月13日（土）～14日（日）梅池高原スキー場

受講生：岐阜4名、愛知県若駒2名、あつた2名、同志会2名、東三河1名の11名。講師森（東三河）、水野（ASC）、宮田（あつた）、三宅（じねんじょ）、中貝（若駒）事務局佐藤（あつた）の合計17名で行いました。13日は天候は雪。宿でオリエンテーションを行い、ゴンドラに乗り、山頂駅近く樹林帯の中で、ピットを掘り、断面観察などを行った。その後天候が崩れてきたため、下山して宿で、ビーコンの特性、コンプレッションテスト、雪崩で何を学ぶかを学びました。14日は低気圧も過ぎ、快晴の中、梅池スキー場第2駐車場近くで、プローブの使い方、プローピングの方法、二班に分かれエアポートアプローチの練習、シャベルでの掘り出しフォーメーション、埋没者の搬出法。複数埋没者のビーコン捜索、シグナルキャッチ受信を行い、終了しました。この講習会で、積雪の状態、ビーコン、プローブの使用法や、埋没者の救助法など一通りの手順が実技の中で理解してもらえたと思います。



## 愛知県勤労者山岳連盟第56期登山学校 2024年3月31日から開講(日程変更あり)

愛知県勤労者山岳連盟第56期登山学校を、下記の2コースで開校します。

**マウンテナリング・コース**は、山を歩くための生活・行動技術、パーティーとしての基本的な行動や考え方を学び、安全な登山の総合的な力量を身につけます。



**クライミング・コース**は、登攀具の初歩的な使い方から岩登りの技術、安全についての理解と認識を高めていきます。

登山の基本的な知識・技術を体系的に学び、「連れていってもらおう」登山者ではなく、総合力を身につけた自立した登山者になることをめざします。多くの仲間の受講を呼びかけます。

**1 定員** マウンテニアリング・コース、クライミング・コース ともに 10 名程度

**2 応募資格、申し込み方法**

資格は特に限定しませんが、学ぶ意欲、体調管理ができること、きちんと歩く力があること。  
(実技の前に課題を配布しますので、ロープワークなどは予習のこと)。

労山基金に 10 口加入していること。**(安全対策基金を活用し、開催されています)**

入校申込書兼推薦書に必要事項を記入し、下記まで申し込んでください。

(必ず所属山岳会の会長が推薦理由を記載し、登山学校事務局へメールで申し込んで下さい)

【申し込み先】 愛知県勤労者山岳連盟 登山学校事務局 [tozangakko@gmail.com](mailto:tozangakko@gmail.com)

**3 受講料** 各コースとも 33,000 円 (机上講習、実技講習代、テキスト代を含む。実技講習にかかる交通費、装備等は各自別途実費負担) ※クライミング装備をそろえるのにお金がかかります。

理論講座を受講してから購入するようにしてください。あわてて買ってしまわないこと。

**4 カリキュラム** \*基本的に、遅刻、欠席は認めません。 \*宿泊を伴う実技等の開催は、状況に応じ対応

【理論講座 (マウンテニアリング、クライミング共通)】 \*オンライン受講は、状況に応じ対応

開 講 日	テーマ ( )内は講師	講 習 内 容
2024 年 3 月 31 日(日) 8:30~16:30	労山運動の理念 ①登山の動機と意義②組織論/③遭難事の防止/ ④自然保護 登山の計画~下山まで ① 計画書の意味/装備と食糧 (洞井)	開校式を兼ねています。何気なく山に登っている自分をまず見つめてみましょう。登山者として必要な「山に入る姿勢」と「なぜ山に登るか?」を考えます。 また計画書の重要性を通して、自分が所属している山岳会の意味や登山の危険と安全、その防止のための登山の基礎的な知識やルールなど登山の基本について考えます。
4 月 1 日(月)	岩登りの基礎 I (三島)	岩登りについての考え方、具体的・基本的な知識、用具の解説、ロープワークについて学びます。
4 月 8 日(月)	岩登りの基礎 II (三島)	岩の登り方・確保の方法についての注意点など、クライミングにおける技術とルール、その実際を理解します。
4 月 15 日(月)	登山の計画~下山まで ② 生活・行動技術 (洞井)	山での生活の基本、行動上の注意点、歩き方や危険箇所の判断・通過の仕方などについて学習します。
4 月 22 日(月)	地図の読み方・使い方 (板倉)	地図の実践的な使い方、読み方を学ぶとともに、計画書作成に不可欠な概念図の書き方について学習します。
5 月 13 日(月)	気象 I (相澤)	天気図と山の天気の基本を学びます。天気予報だけではわからない、気象のあれこれが見えてきます。
5 月 20 日(月)	気象 II (相澤)	天気図が書けるだけでなく読めることが必要です。天候の予測、次の行動の判断ができるようになるかな?
5 月 27 日(月)	沢登りの基礎 (岩田)	岩登り、生活・行動技術など総合的な力を要求される沢登り。その装備や技術について学びます。
6 月 3 日(月)	確保技術講習会 (机上) ※県連遭対部行事 (三宅)	岩登りや沢登りに不可欠な確保技術。正確な知識と安全な確保とはどのようなものか、を学びます。
6 月 10 日(月)	無雪期救助訓練 (机上) ※県連遭対部行事 (清水)	県連の救助訓練に参加します。山行中に起きた事故を想定した救助の基礎的で実戦的な知識と技術を学びます。



6月17日(月)	パーティー論・リーダー論 (洞井)	パーティーが安全に登り、確実に下山できるようにリーダーやメンバーが果たすべき役割と責任は？
6月22日(土) 9:30~16:00	救急救命法 ※県連遭対部行事 (森)	ファーストエイド。山行中のアクシデントや疾病に対処できる実践的な知識・技術を学びます。
6月24日(月)	体力・トレーニング論 (野村)	登山に必要な体力づくりを効果的におこなう方法を学びます。日常的に実践できるようになりましょう。
7月1日(月)	登山の危険と安全対策 (森)	山では危険のあることを知り、安全な登山をしていくことは登山者の責任。事故事例を検証し、他に学ぶことで、どうしたら安全な登山ができるかを考えます。

【実技】 M：マウンテニアリングコース、 C：クライミングコース、 MC：両コース共通

実施日程	区分	山域(予定)	備考
4月13-14日(日)	MC	南山(豊田)ゲレンデ	テント泊。基本の「き」を学ぶ
4月20日(土)	M	鈴鹿・烏帽子岳(予定)	山歩きのおもしろさを実感
4月21日(日)	C	南山(豊田)ゲレンデ	いよいよ、岩場で実践
5月12日(日)	C	鈴鹿・藤内壁	岩登りの基本を反復しながら確認
5月18-19日(土・日)	M	鈴鹿南部(未定)	幕営・生活技術を習得する
5月26日(日)	C	鈴鹿・藤内壁	岩登りの基本を反復しながら確認
6月9日(日)	C	鈴鹿・藤内壁	岩登りの基本に習熟する
6月16日(日)	MC	比良(予定)	確保技術講習会実技 ※県連遭対部行事
6月23日(日)	MC	鈴鹿・藤内壁周辺	救助訓練 ※県連遭対部行事
6月29-30日(土・日)	MC	鈴鹿周辺(予定)	1日目読図、2日目沢登り
8月17日(土)	M	中央ア・烏帽子岳	研修山行を見据えた実技
8月18日(日)	C	鈴鹿・藤内壁	研修山行を見据えた実技
8月31-9月1日(土・日)	M	八ヶ岳	研修山行 ※8月19日(月)打合わせ
9月7-8日(土・日)	C	八ヶ岳・阿弥陀南稜～小同心・中山尾根(予定)	研修山行 ※8月19日(月)打合わせ

## 登山学校の理論講座は、労山会員なら誰でも受講可能です。(一講座 500円)

「学びたい!」と思う講座をチョイスして聞くことができます。この機会を有効に使いましょう! 有料ですが、普段なかなかかでは学べない内容の講座をラインナップしています。講座当日、19時半までに県連事務所へどうぞ! 県連登山学校のテキストも、希望者には頒布(1000円)しています。当日の講師の補足資料(受講者に配布)とあわせてご利用ください。

【編集後記】2月中旬は記録的な暖かさで、てっきりこのまま春かな?とと思っていましたが、また冬に逆戻り。どうも3月の前半まではこんな足踏み状態が続くようです。暖冬だったわりに、本格的な春はまだ遠い年度末です。(事務局 井土)

ご意見、ご要望・投稿・写真などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com

**Schedule 2024** (次年度の日程(案)です。)

3月			4月			5月		
1	金		1	月	登山学校理論	1	水	
2	土		2	火		2	木	女性部会③
3	日	第56期総会	3	水	東海	3	金	
4	月		4	木	組織担当者会議② 女性部会②	4	土	
5	火		5	金		5	日	
6	水	東海	6	土		6	月	
7	木	組織担当者会議① 女性部会①	7	日	交流山行(教育部)	7	火	
8	金		8	月	登山学校理論	8	水	東海
9	土		9	火		9	木	理事会③
10	日		10	水		10	金	
11	月		11	木	理事会②	11	土	
12	火		12	金	春山合宿連絡会議	12	日	交流山行(組織部) 登山学校 C
13	水		13	土	登山学校 MC	13	月	登山学校理論
14	木	理事会①	14	日	登山学校 MC	14	火	
15	金	自然保護担当①	15	月	登山学校理論	15	水	
16	土		16	火		16	木	
17	日		17	水	東海	17	金	春山合宿報告会議
18	月		18	木		18	土	登山学校 M
19	火		19	金		19	日	登山学校 M
20	水	東海	20	土	登山学校 M	20	月	登山学校理論
21	木	教育担当者会議①	21	日	登山学校 C	21	火	
22	金		22	月	登山学校理論	22	水	東海
23	土		23	火		23	木	教育担当者会議③
24	日		24	水		24	金	
25	月		25	木	全国理事会 教育担当者会議②	25	土	
26	火		26	金		26	日	登山学校 C
27	水		27	土		27	月	登山学校理論
28	木	全国理事会	28	日		28	火	
29	金	遭対担当①	29	月		29	水	
30	土		30	火		30	木	理事会④
31	日	登山学校理論				31	金	